

トノサマバッタ

酷暑の中での草刈作業は重労働です。当協会の作業参加者は 60 歳台、70 歳台の高齢者ばかりなので、下手すりゃ熱射病で命すらとられるリスクを背負っているのですが、そこは経験豊かな面々、対策にぬかりはありません。これまでの 13 年の歴史の中で一人も発病しておりません。水分、塩分の補給は当然のこと。ちゃっかりキャリコ（小型貨物車で当協会制定の愛称）のクーラーで変わりばんこで体温を下げる知恵者たちもいるのです。



汗まみれで昼飯場所にもどりましたら、テントのシートの上にオンブバッタがいました。正しくはトノサマバッタの交尾の場面なのです。こんな機会でなければデジカメでの接写は不可能です。単独の場合は警戒心が強くて近寄るとすぐに飛び立って逃げてしまいます。それを追跡すればするほどハイになっていますので、捕虫網でも捉えることが出来ません。昆虫少年時代に遠賀川原で散々あしらわれた相手なのです。上の画像の記録は 2015 年 8 月 4 日 12 時 9 分でした。体長は♂が 35~40mm、♀の方が大きくて 45~65mm、出現時期は 7~11 月です。



最近はなくなりましたが、昔は北海道でも飛蝗害に悩まされた歴史があることをご存知の方が多いと思いますが、こいつもトノサマバッタの異変態の仕業なのでした。平常的には右上の写真の装いでおとなしくイネ科の植物を食べて単独的に活動していますが、ある環境条件の変化の影響を受けて突然大発生をして、まるで別種のバッタのごとく、装いも黒味がかって猛々しくなり、飛翔力が強くなり、雑食性にもなって大群で移動しながら口当り次第に農作物やら、雑草、他の虫たち、果ては繊維質の衣類や紙までも食い荒らす大害虫に変貌するのです。世界中の大陸で亜種や近縁種がいて、規模的にもとてつもない大群が記録されていました。詳しい事情を知りたい方はネットで「飛蝗」を検索して Wikipedia をご覧ください。

